

琉球諸島産、海産顕花植物（アジモ）の 開花・結実期と2・3の知見

当真 武

琉球諸島（沖縄諸島と先島諸島を総称してよぶことにする⁵⁾）には熱帯域に分布する種が多いが、それら開花・結実期について簡単に報告した^{8) 9)}。本報告はそれも含めてその後に分かった結果について報告する。結果を表-1、図-1～2に示した。なお、本調査は標題に沿って積極的に調査したわけではないが、今後も生態観察を続け整備する考えである。大分ほか数県で海産顕花植物（アジモ）の種子からの藻場造成試験がなされている。

表-1 琉球列島産（沖縄諸島以南）の海産顕花植物（アジモ）の開花・結実期

種 名 / 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
リュウキュウスガモ ※ ¹⁰⁾	◎	◎ ³⁾	◎ ³⁾	◎ ⁹⁾	◎ ³⁾	◎ ³⁾			※◎ ¹⁴⁾ ₁₅₎	◎ ¹³⁾	※◎ ⁸⁾ ※ ¹²⁾	◎ ¹⁵⁾
	△ ¹¹⁾			△ ⁹⁾								
ベニアマモ												※
リュウキュウアマモ												
ボウバアマモ												
ウミジグザ												
マツバウミジグザ												
コアマモ												
ウミヒルモ												
ウミショウブ												

※：開花 ○：つぼみ ◎：結実 △：発芽体

- 1) 国頭・伊部、2) 名護・屋我地、3) 恩納・屋嘉田、4) 具志川・宇堅、5) 金武・伊芸
6) 津堅島、7) 沖縄市・泡瀬、8) 豊見城・岡波島、10) 糸満・名城、11) 喜屋武漁港沖、
12) 久米島、13) 宮古島、14) 石垣島（吉原・伊野田）、15) 西表島、16) 鳩間島

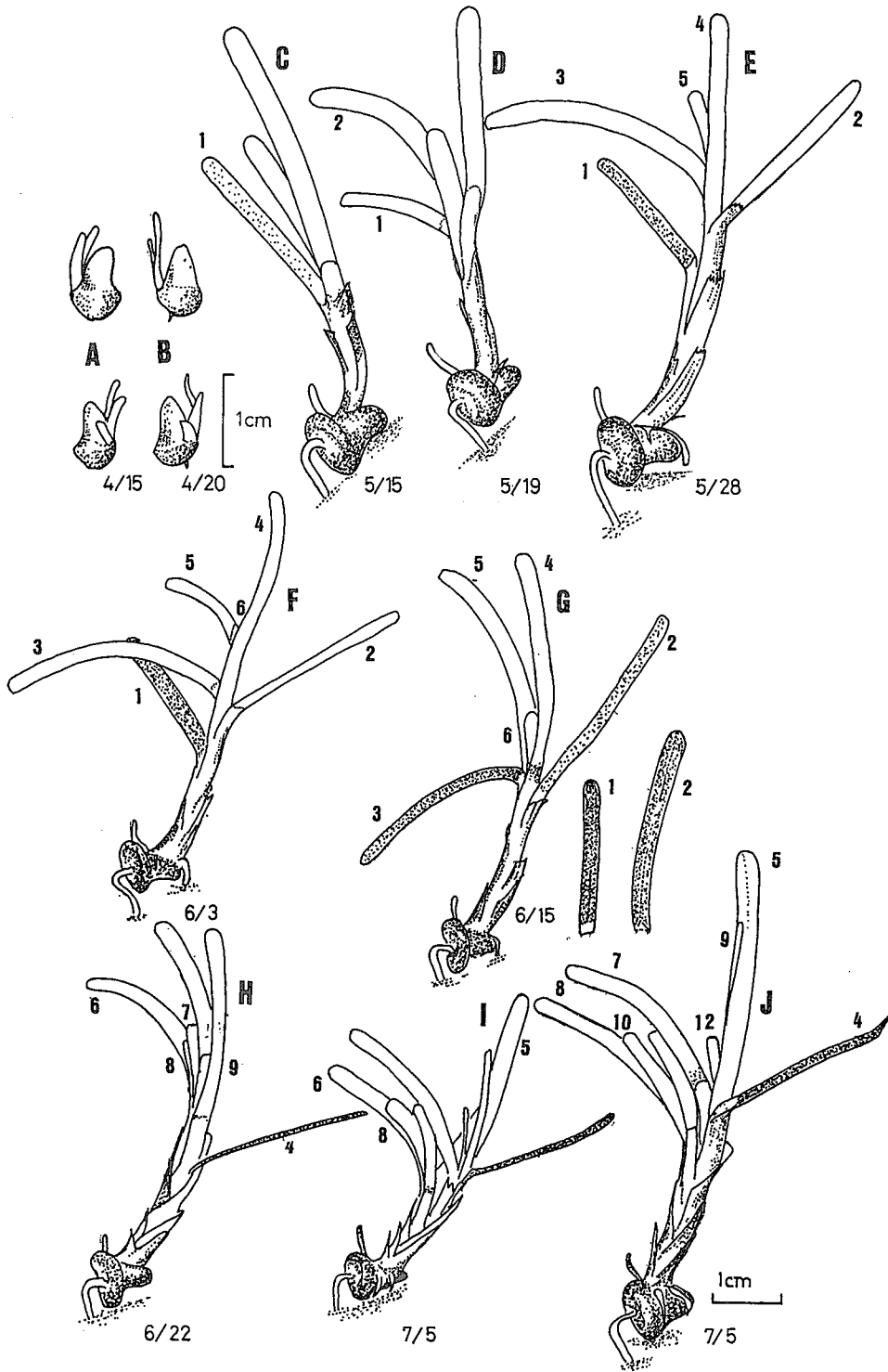


図-1 リュウキュウスガモの発芽

A : 5 ℓ ビーカ内で発芽した実 (1982. 04. 15). B ~ J : 一連の生長の様子、約85日間で約7 cm に生長した。Gの1と2 : 落葉

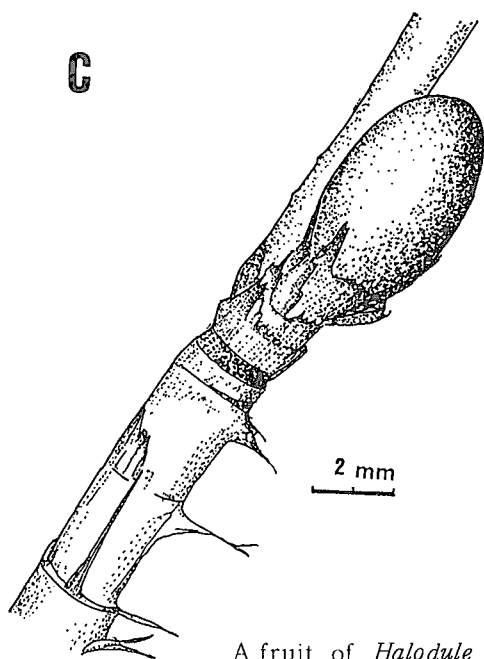
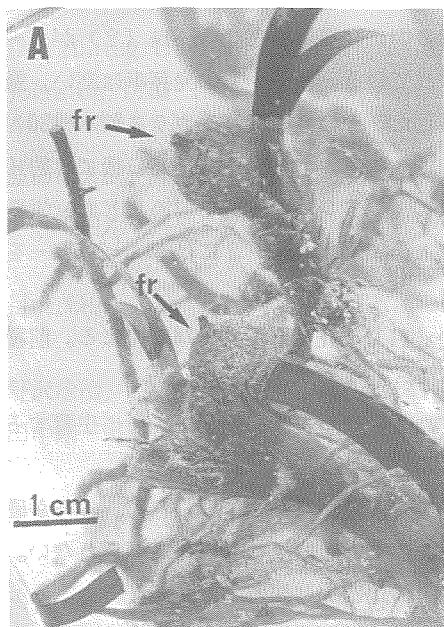


図-2 リュウキュウスガモの実 (A)、ウミショウブの花と実 (B)、およびウマシバミジグサ (C) の実
 fr: 実、fl: 花、r: 根、l: 葉、
 A: 1979.05 恩納、: B: 1982.08 西表
 C: 具志川・宇堅産、1981.09.03

A fruit of *Halodule Pimifolia* (Miki) den Hardog

リュウキュウスガモ：大きな群落を形成し、礁池の半ばまで勢力を伸ばす種である⁸⁾。7・8月を除いては周年種子が観察される。実1個の中に発芽単位となる胚珠(?)が2~4個入っている。発芽体が1月と4月に採集されている。種子からの発芽率は高い。恩納・屋嘉田で1983.02.09に50個の種子を採集した。そのうち30個をガラス製水槽90×44×45cmを使用して発芽試験したところ、2日後にはすべて発芽し、95日後には約10cmに生長した。その間、2週間毎に3/4換水し、エアレーションを弱めにした。栄養塩としてノリマックス前期用を2~3日ごとに1cc加えた。図-2には5ℓビーカーを使用した観察結果を示した。

ベニアマモ：種子、花をめったにみる事ができない。11月の花は野沢(1974)による。前種と混生して大きな群落をつくることが多い。

リュウキュウアマモ：琉球諸島ではまだ1度も観察されていない。波浪の弱い場所に生育する。地下茎が地上を匍匐している様子がしばしば観察される。

ボウバアマモ：7~10月に花が普通にみられる。波がやや穏やかな場所にみられる。本種が礁縁近くまで見られるというの⁹⁾誤りであろう。少くとも健全な形態では見られない。

ウミジグザ：湾奥部や波が静かな場所に生育する。干出に比較的弱い。

マツバウミジグザ：湾奥部や波が静かな場所に多く生育する。耐干性がある。藻場の中から25×25cm掘り起こし、それぞれ6時間、12時間の干出後に水に戻す試験(1982.07.06)によると、いずれも葉の色、形に変化がみられなかった。藻場に戻した後も順調に生育した。

コアマモ：温帯産で唯一琉球列島まで南下した種。西表島まで分布する⁷⁾。湾奥部に比較的普通に生育する⁸⁾。マツバウミジグサと同様の試験をしたが、葉の形態に変化がなかった。干出に比較的強い。淡水がかかる場所、還元層のある底質に多く生育する。

ウミヒルモ：湾奥部から礁縁近くまで至るところに生育する。干上がる場所から水深25mまで生育する^{10) 11)}。葉柄が赤いものもある。

ウミショウブ：熱帯産で石垣島、西表島、波照間島に分布。平均潮位下約1.2mから干上がらない場所に多い。河川が多く狭い所から急に広い河口域となる海岸には分布しない¹⁾。

琉球諸島においても比較的大きな川である仲間川、名蔵川河口域には生育していない^{4) 12)}が、小さな川河口域には生育している¹²⁾。仲間川、名蔵川河口域の塩分変化が大きいことが測定されている^{13) 14)}。本種が名蔵湾に生育しない理由の一つにその水深が浅いことあげている⁴⁾が、そのことも大降雨時に湾内に流入する淡水を生育可能な濃度に希釈する能力と関係し生育を制限しているものと推定される。花柄を水面にのばして受粉することが知られている^{1) 4)}。雄花の花柄は40~50cmとしているので¹⁾、これまでの観察例からみると、水深2~3m以深にはあまり生育していないとみてよいであろう。

参 考 文 献

1. Den Hartog, C. 1970, The sea-grasses of the world. 275pp. North-holland, Amsterdam.
2. Johnston, I. M. 1975, The sea-grasses of the Port Moresby, Region. Univ. of Papua New-Guinea. Dept. Biology, occ. Paper, 7, 38 pp.
3. 原田市太郎, 1974?, 水草の形態・細胞などあれこれ。遺伝(?), 4-11.
4. 金本自由生・渡辺利明, 1981. 石垣島名蔵湾の海草藻場の生態学的研究, I. 海草の分布と生態。ベンスト研究誌. 21/22, 1-14.
5. 目崎茂和, 1980. 琉球列島における島の地形的分類とその帯状分布。琉球列島の地質学研究, 5巻, 91-101.
6. 野沢治治, 1974. 海の家草。遺伝. 28(8): 43-39.
7. 田中剛・野沢治治・野沢ユリ子, 1962, 本邦産海産顕花植物の分布について。Acta. Phytotax. geobot., 20: 180-183.
8. 当真 武. 1981, 琉球列島(沖縄諸島以南)の海草藻場面積と主要組成。昭和54年度沖縄県水試事業報. 167-176.
9. 当真 武. 1976. 海の家花植物について、沖縄生物学会通信、(23): 1~2.
10. 当真 武. 1980a. 海草群落構成種から物理的環境を推定する試み。沖縄生物学会第17回大会講演要旨集.
11. 当真 武. 1980b. 生物学的環境調査-ベントス。「珊瑚礁海域漁場開発計画調査報告書」6-26. 沖縄開発庁沖縄総合事務局.
12. 当真 武. 本村浩司・大城 譲. 1983, 西表島船浦および周辺海域の家産植物の分布と生態。西表島水域漁場開発計画調査結果報告書, 37-55. 沖縄開発庁沖縄総合事務局.
13. 渡久山章, 新垣 保, 水流伸夫. 1987. 石西礁海水の地球化学的研究。沖縄の大サンゴ礁・石西礁, 月刊地球, 93号, 141-147. 海洋出版株式会社.
14. 山本聡, 1987. 八重山, 石西礁湖の水塊構造。月刊地球, 93号, 135-141. 海洋出版株式会社.